

質疑回答一覧

令和元年度

質問 No.	テキストの頁	質疑内容	回答	担当講師
1	P.214～	<p>公庫等の仕様で、基礎のスパン表のチェックを提出する様になっていますが、ソフト等では、自動的にチェックがなされ、不可の場合は基礎鉄筋を変更する事で判定値を出す様になっています。</p> <p>手計算では、大変手間のかかる事ですが、スパン表を用いた分かりやすいやり方や、excel等でそれらをチェックするソフトなどがあつたらご教示願います。</p>	<p>基礎のスパン表について、『小規模建築物基礎設計指針』(日本建築学会)に記載されている「基礎の配筋検討表」などや『木造軸組工法住宅の横架材及び基礎のスパン表(2018年版)』(日本住宅・木材技術センター)などがあります。</p> <p>また、日本住宅・木材技術センターでは、基礎のスパン表の利用講習会(有料)なども開催しておりますので、御都合が合えば御参加するのでもいいかと思ひます。</p> <p>各種団体などからも実務で利用できるような基礎のスパン表などを発行している場合もあります。御加盟の団体に基礎スパン表に関する講習会の実施などについてお問い合わせいただくのいいと思ひます。</p>	小原

平成30年度

1	P.45、46	別表第一～第三について、具体的にどんなおさまりの時にどの表を使うか教えて下さい。	<p>別表第一は、大壁仕様です。</p> <p>別表第二は、受材仕様真壁もしくは貫仕様真壁で、床勝ち仕様も含まれます。43ページの図19を御参照ください。</p> <p>別表第三は、大壁仕様で床勝ち仕様です。</p>	小原
2	P.168	一番下のモーメント図の数値が違ふと講義中に言っていたので、正しい数値、図が欲しい。	「物体に作用する力の総和=0」という力の平衡に関する力学法則からすれば、P.163最下行・P.167の16行にある記述通り、モーメントの総和は0にならねばなりません。しかしながら、総和を求めてみると0とはならず、43.52kNmという値が残ってしまいます。このことをご説明してあります。テキスト中の数値、図が誤っているわけではありません。	佐々木
3	P.184	正味断面積 A_o の算出方法(仕口形状毎?) 単純に $A_o=b' \times d'$ で良いのか? もし、 $A_o=b' \times d'$ なら蟻継、鎌継等の仕口形状が異なっても同じか?	梁仕口の有効断面積の求め方につきましては、木造軸組工法住宅の許容応力度設計(2017年版)のP113に解説が載っていますのでそちらをご参考下さい。	山崎
4	P.208	耐力壁の剛性(K1)を求める式で壁倍率を使用するが、この値も許容応力時と同様に7倍なのですか? 倍率が大きいほど、低減も大きくなる式であると思うので、7倍を上限とすると過大評価となってしまうのでは?	<p>耐力壁の剛性(K1)は、実質壁倍率を使って計算します。</p> <p>木造軸組工法住宅の許容応力度設計(2017年版)で設定されている耐力壁の壁倍率は最大7倍ですので、それ以上の耐力壁を使用することは、「木造軸組工法住宅の許容応力度設計(2017年版)」でフォローされている範疇を超えてしまいます。</p> <p>壁倍率7倍以上の耐力壁を使用する場合には、他の部位への影響などを検証する必要があります。</p>	山崎
5	P.246～250	演習回答(1階の地震力 $QE=32.46kN$ で計算した回答を知りたい。)	演習回答(136)、(142)、(173)、(179)、(185)、(191)が32.16から32.46になり、これに伴い(138)8.44、(144)9.09、(175)9.42、(181)12.34、(187)3.90、(193)7.15となります。	相知